

れんけいニュース

Vol. 16



パステル和アート「ひかり」医療福祉相談室 畑澤美香

<Contents>

- ◆ 新年度挨拶（院長／地域連携室 室長／事務長／看護部長）…P②,P③
- ◆ 新医局員・臨床研修医紹介…P④
- ◆ 部門紹介（外来化学療法室）…P⑤
- ◆ セミナー開催（サロンおひさま・介護連携セミナー）…P⑥
- ◆ Medical information～ボトックス療法～…P⑦
- ◆ お知らせ…P⑧

院長挨拶

院長 佐藤 一成



NHK大河ドラマ「西郷どん」を毎週楽しみにしています。実際の西郷隆盛がドラマのように人道主義的な人だったかどうかは、異論があるようですが、それには深く立ち入らないで気楽に視聴しています。しかし、見ていて辛いのは、当時のお百姓の貧しく厳しい生活ぶり。朝から晩まで狭い田畑で家中総出の人手作業、収穫される米は少なくほとんど年貢に取られいつも飢餓状態。「品種改良された種苗、肥料、病害虫を防ぐ農薬、農業技術、農業機械などがあれば、あんな酷い暮らしはしなくて済んだのに。」と試してみても今だからいえる話です。

医療分野の業務も労働集約的とされ、歴史をみると先人の苦勞が偲ばれます。と同時に私の知っている時代でも様々な改善がありました。一例をあげると、医療クランクが導入されて事務作業を肩代わりしてくれるお陰で、医師の負担は軽減しました。画期的なことでした。私にとっては1時間早くお昼が食べられ、空腹が癒やされました。

さて、今年度は診療報酬・介護報酬改定が行われました。この改定の基本方針のひとつとして、医療・介護現場の新たな働き方の推進が掲げられました。各機関が連携し、お互いの負担を軽減するためチームとして役割を果たす。地域の医療・介護を持続可能とするためには必須のことと思われまます。地域包括ケアシステムに携わる未来の人々に、この時代がエポックと思ってもらえるような協力関係を作りたいものです。

地域医療連携室室長挨拶

室長 菊池 俊彦



『れんけいニュース』Vol. 16の発行にあたり、由利組合総合病院地域医療連携室を代表して、ひとことご挨拶申し上げます。

昨年度は4月に「退院支援専従看護師」を新設し、また11月には介護施設との連携を強化する目的で、第1回介護連携協議会を開催するなど、新たな試みを開始したため、あわただしく経過した1年でした。

また10月には、約1年前から準備を開始していた病院機能評価の本番を迎えました。評価は各職域ごとに詳細かつ厳密になされます。3月に最終結果が示されましたが、「れんけいニュース」などの地域医療機関や地域住民への情報発信や医療に関する教育啓蒙活動は、地域医療の充実に向けて大きく貢献しているとの評価をいただくことができました。

今年度も昨年度と同様に、有用かつ敷居の低い連携室をめざして、スタッフ一同努力していきますので、よろしくお願いいたします。

看護部長挨拶



看護部長 大場 玲

4月より看護部長に就任致しました大場 玲と申します。よろしくお願い致します。

当院看護部は、病院理念に基づき地域住民の皆様との繋がりを大切に、専門職としての自覚と誇りを持って日々研鑽を積んでおります。地域住民の皆様が安心して外来受診ができ、入院生活にも満足して退院していただけるように、信頼される看護、思いやりのある優しい看護をモットーにお世話させていただきます。昨年度より、地域病院の看護部同志のネットワークづくりも始め、顔の見える関係の中で情報の共有を行い、連携を強めています。

これからも地域住民の皆様は、信頼され続ける看護部でありたいと思っています。時には厳しいご意見をいただくこともありますが、真摯に受け止めて頑張ってまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

事務長挨拶



事務長 小池 暁

平成30年4月の人事異動により、事務長として着任いたしました小池 暁と申します。

私は由利本荘市出身ですが、厚生連に入って以来26年目にして、初の由利組合総合病院勤務となります。新しい職場環境、これまでと違った役目と職務ということで、多少の不安と戸惑いを感じております。日々、職務に精励し、職責を果たせるよう努力してまいりますので宜しくお願い申し上げます。

当院は「質の高い医療により地域に貢献する」を病院の理念として、医療の実践及び提供に努めております。社会情勢の変化等にて病院に求められるニーズも時代とともに変化してきており、それに対応すべく、病院としても変わって行かなければならない部分があると考えております。

地域に貢献できる病院、地域の皆様に信頼され安心して利用できる病院として、停滞することなく前に進んでいかなければならないと私なりに感じております。

最後に、地域の皆様方から特段のご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

新医局員紹介

※() : 卒年 ①専門 ②趣味



消化器内科 科長
道免 孝洋 (H14)

- ① 肝疾患
- ② 卓球、ドライブ



脳神経外科 医員
濱崎 亮 (H25)

- ① 脳外科
- ② スポーツ観戦



産婦人科 医員
高須賀 緑 (H26)

- ① 産婦人科
- ② 編み物、ピアノ



小児科 科長
小山田 遵 (H14)

- ① 小児科一般、川崎病、先天性心疾患
- ② ドライブ、旅行、将棋、酒を飲むこと



小児科 医員
仲本 雄一 (H26)

- ① 小児科
- ② サッカー、フットサル



消化器内科 医長
草野 央 (H12)

- ① 消化器内科
- ② ランニング



外科 医員
石井 良明 (H28)

- ① 外科
- ② サイクリング、ゲーム、音楽鑑賞



消化器内科 医長
荒田 英 (H20)

- ① 肝・胆・膵
- ② 映画鑑賞



外科 医員
米屋 崇峻 (H28)

- ① 外科
- ② ランニング、散歩



循環器内科 医員
真壁 伸 (H17)

- ① 循環器内科
- ② 旅行



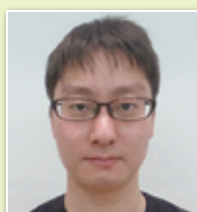
産婦人科 医員
和賀 正人 (H28)

- ① 産婦人科
- ② 飲んで歌って踊る!!



歯科口腔外科 医員
北村 厚 (H25)

- ① 口腔外科
- ② ゴルフ、登山、スキー



小児科 医員
山本 達彦 (H28)

- ① 小児科
- ② マラソン

臨床研修医紹介(1年目)



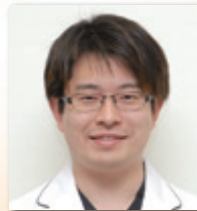
三浦 貴朗



平下 祐生



横山 翔太



橋本 泰樹



小滝 優平

部 門 紹 介

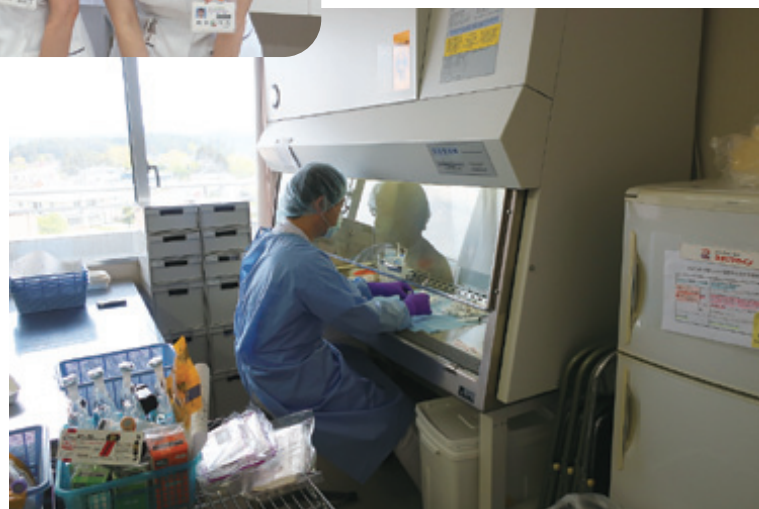
外来化学療法室

外来化学療法室は、平成19年に4階フロアーに開設され、平成26年には、桜並木を望めることができる待合室も新設されました。病床数は、ベッド10床、リクライニングチェア1台でフル稼働しています。がん治療認定医、がん看護専門分野指導者研修修了者2名、がん化学療法看護認定看護師教育課程修了者1名、がん薬物療法認定薬剤師を含む専任薬剤師2名の専門知識をもったスタッフを配置し、確実、安全、安楽な医療を心掛けております。抗がん剤治療中は、看護師が定期的にベットサイドを巡回し、確実な化学療法の実施、副作用の早期発見、迅速な対応に努めております。また、身体的、精神的な問題に対し、緩和ケア認定看護師やがん相談支援センター看護師の介入などチーム医療を提供しております。

入院期間の短縮やDPCの導入などにより多くの病院で急速に外来化学療法体制が整備されてきています。当院では、主に内科（血液疾患、リウマチ）外科（乳癌、肺癌、消化器癌）、泌尿器科、腫瘍内科の患者さん等、月に約200名の方が抗がん剤治療を受けています。当院医療圏である由利本荘、にかほ地区は、秋田県の中でも老々介護や独居世帯の増加という問題を抱えており、セルフケア支援、治療方針の意思決定、家族間の調整など患者の尊厳を尊重しながら治療の継続、完遂へ向けた働きかけの難しさを痛感しています。

近年、抗がん剤の種類や治療計画も複雑化しており、化学療法に携わるスタッフは、新しい抗がん剤や支持療法の知識を習得し、初期治療から緩和ケアまで必要な支援を患者さんと家族と共に考え、専門的な知識と技術、温かい看護を提供して参りたいと思っております。

（奥山恵利子）



2018 院外サロン『おひさま』 in アクアパル開催しました

由利組合総合病院では、地域がん診療病院としてがん相談支援センターが主催し、5年前より毎年1回、院外でサロン『おひさま』を開催しております。今年度は、「がんと共に生きる～がん患者さんの最善の選択～」と題し、5月12日土曜日に13時から15時まで講演会は院内臨床心理士佐々木亮次先生より「生きることと語ること」、茶話会は立場（患者・家族・遺族・医療従事者・関心のある方）の異なる方々が4グループに分かれ、語り合う時間を設けました。参加人数は講演会32名、茶話会24名で、参加者の方々から「語ることの大切さを学びました。」「語ることは自分だけでなく、周囲の為になることも学びました。」「話せてすっきりしました。」「もっと、話したかった。」など意見を頂きました。

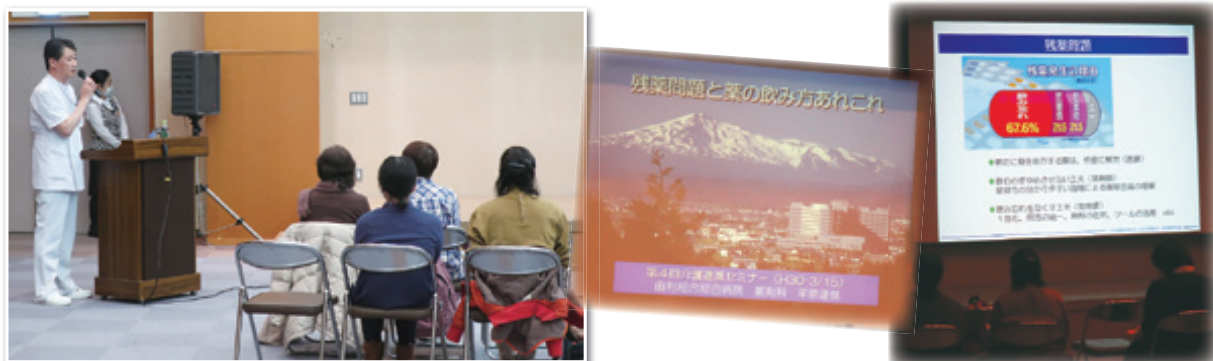
がん相談支援センターは、がん患者さんやご家族がいつでも、どんなことでも、どなたでも相談しやすい場の提供と共に、相談者の不安や悩みに対して共に考える役割を持っております。また、院内サロンも毎月開催しております。是非、おひとりでもお気軽にご相談下さい。



第4回 介護連携セミナー（平成30年3月15日開催）

高齢者の多くは1回に10種類以上の薬を服用する方もいる中で、飲み残しや飲み忘れによる残薬問題が取り上げられています。今回のセミナーでは薬剤科：平泉薬剤長より、「残薬問題とくすりの飲みせ方（飲むタイミング）」を主なテーマとして講演をして頂きました。

残薬問題を考えるにあたり、病院とかかりつけ医の連携だけでなく、かかりつけ薬局を持つことでいつでも相談できる環境を作る事の重要性を感じました。



平成29年度も予定通り介護連携セミナーを開催することが出来ました。多数のご参加ありがとうございました。平成30年度も開催を企画していますので、引き続きご参加の程よろしくお願ひします。

Medical information～ボツリヌス療法～

由利組合総合病院 脳神経外科 診療部長 須田良孝

脳神経外科では痙縮【手足のつっぱり】を軽減する「ボツリヌス療法」を行っています。

けいしゆく

痙縮（手足のつっぱり）とは

脳卒中によくみられる運動障害の一つに痙縮という症状があります。痙縮とは、筋肉が緊張しすぎて、手足を動かしにくかったり、勝手に動いてしまう状態のことです。痙縮では、手指が握ったままとなり開こうとしても開きにくい、肘が曲がる、足先が足の裏のほうに曲がってしまうなどの症状がみられます。痙縮による姿勢異常が長く続くと、筋肉が固まって関節の運動が制限され（これを拘縮といいます）、日常生活に支障が生じてしまいます。また、痙縮がリハビリテーションの障害となることもあるので、痙縮に対する治療が必要となります。



ボツリヌス療法とは

ボツリヌス療法とは、ボツリヌス菌が作り出す天然のたんぱく質を有効成分とする薬を筋肉内に注射する治療法で、筋肉を緊張させている神経の働きを抑える作用があります。そのため注射すると、筋肉の緊張をやわらげることができます。ボツリヌス菌そのものを注射するわけではないので、ボツリヌス菌に感染する危険性はありません。脳卒中ガイドライン2015ではグレードAで推奨されています。

ボツリヌス療法は
世界80カ国以上で認められ、
広く使用されています



ボツリヌス療法の効果

ボツリヌス療法によって次のような効果が期待できます。



ボツリヌス療法のすすめかた

効果は注射後2～3日目から徐々にあらわれ、通常3～4か月間持続します。効果は徐々に消えてしまいますので、治療を続ける場合には年に数回注射をします。効果の持続期間には個人差があるので、症状に応じて治療計画を立てていきます。初めての治療で理想とする効果を期待するのではなく、繰り返し治療を重ねることで最適な治療（投与量・投与部位）を見つけていきます。

ご紹介の際は、地域医療連携室へお願いします。

お知らせ

<受付時間の変更について>

平成30年5月1日より、外来受付時間が変わります。

- 新患受付 8:00～11:00
- 再来（院内受付機） 7:00～11:00
- 再来（院外受付機） 7:00～10:00

※皮膚科、神経内科等の午後診察は、従来通りです

体制の変更に伴いご不便をおかけ致しますが、ご理解とご協力の程、何卒宜しくお願い致します。

<セミナーのご案内>

介護連携セミナー（定員40名程度）

日時：平成30年8月22日（水）18:00～19:00

場所：由利組合総合病院 2階 講堂

テーマ：介護施設・ケアマネジャーと病院～こんな連携があったらうれしいな～

担当：入退院支援センター

◆ 外来診療申込時のお願い

→ 患者様をご紹介の際に記載していただく外来診療申込書の記載情報について、申込前に再度ご確認ください様ご理解とご協力の程宜しくお願い致します。

◆ 患者様の紹介に向けた取り組みについて

→ 当院では地域医療の機能分化に向けて逆紹介の推進に取り組んでおります。ご理解の程よろしく申し上げます。

◆ ご紹介患者様の診察について

→ ご紹介される患者様が新患である場合や紹介内容によって、新患担当医師または専門医師が診察を行うことがあり、ご希望の医師とならないことがあります。

◎ 診察医師にご希望がある際は、外来担当医一覧をご確認いただき外来診療申込書にて地域医療連携室へ診療申込をお願い致します。

診療申込みはFAXで地域医療連携室（下記参照）へお願いします。



★由利組合総合病院 地域連携センター★

月曜日～金曜日（祝祭日を除く）8:30～17:00※時間外は救急室へご連絡お願い致します。

地域連携・入退院支援 TEL 0184-27-1293（直通）

医療福祉相談 TEL 0184-27-1264（直通）

FAX 0184-27-1318（直通）